第4章
副読本
32～35ページ

1. 避難者の一員として①

年　　組　　番　氏名

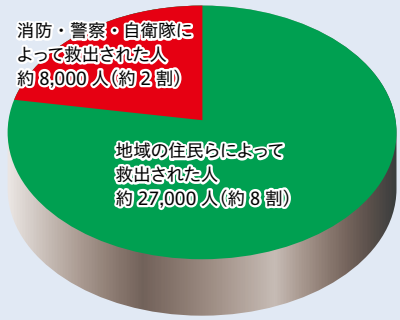
阪神・淡路大震災における助け合い

1995（平成7）年に起こった阪神・淡路大震災では，約6,400人が犠牲となりました。この地震により，建物や電柱が倒壊し，火災もあちこちで発生したため道路が思うように使えず，公共機関による救助・消火活動は時間がかかりました。

そのため，がれきの生き埋めになりながら助かった約35,000人のうち8割近い約27,000人は，近隣の住民たちが助け出しました。

このように，近隣で助け合う地域の力は，災害時も大きな力となり，たくさんの命を救いました。

阪神・淡路大震災における住民による救助の割合



（出典：「大規模地震災害による人的被害の予測」自然災害科学 Vol.16　No.1　河田恵昭）

1 災害直後，近隣の地域の人たちが助け合って人命救助などを行うためには，日ごろから，地域の人たちとどのように関わっておくことが大切かを考えましょう。

2 ＡＥＤ（自動体外式除細動器）が地域のどこに設置されているか確認しましょう。

	設置されている場所	
学校内		
家の近く		
登下校の経路		

ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の使用方法を覚えておきましょう。